

平成 21 年度第 2 回 第 2 期宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会

日 時：平成 21 年 6 月 15 日（月）18：00～20：10

会 場：宮前区役所保健所集団教育ホール

参加者：高木部会長、永野委員長、河井委員、千葉委員、恒川委員、松井委員、渡辺委員

（以上区民会議委員 7 名）

岩佐、成沢、鈴木（以上宮前区役所企画課 3 名）

岩下（株式会社シー・エス・ケイ）

開会

- ・開会あいさつ（岩佐企画課長）
- ・公開の説明
- ・資料確認

議事

（1）具体的な課題解決策について

※事務局から資料 1 に沿って説明があり、意見交換した。

渡辺委員 今回は私が作成した向丘中学校区の桜と緑のマップを参考に持参させていただきました。向丘中学校は宮前区の平小、向丘小をはじめ、高津区の上作延小、南原小、多摩区の長尾小の一部などかなり広範囲から子どもたちが通っており、学区内には緑ヶ丘霊園など桜の名所がいくつかあります。延命寺、上作延第 4 公園の桜なども撮影して入れてみました。開発の手が迫ってきている様子がわかります。駐車場に一本だけ残っている八重桜もありました。全て私個人の感覚で撮影していますので、例えば子どもたちにも参加してもらって、子どもたちの視点から撮ってもらえたら、もっとおもしろくなるのではないかと思います。特に最近は防犯の面から、私のような男がカメラを持って学校に入っていくのは非常に難しい現状があります。ある学校では教頭先生同伴で、生徒がいない所ということをやっと撮影できた所もありました。個人のお宅でも立派な桜を撮影させていただきましたが、まだまだ撮りきれいていません。等覚院の写真は松井委員からご提供いただいたものです。

もう一枚は緑のマップです。緑だけでなく、面白いものがたくさん見つかりました。二十三夜供養塔というのもありました。十三夜、十五夜はよく聞くのですが、二十三夜というのは初めてでした。昔の人は、月を見ながら、一晚中酒を飲み交わし、情報交換などしていたようで、そうした場所を記念したものようです。

松井委員 私たちのグリーンフォーラムでは、平中、菅生中などでも作業を進めています。緑のマップは 8 中学校区で進めています。できたマップを学校や公共施設に展示し、感想を聞いたり、一緒に歩くイベントを企画するプログラムが組んでいきたいと考えています。

マップのつくり方ですが、撮影した写真を A4 の用紙に 3～4 枚入れる形で印刷しています。これは Microsoft Word を使えばパソコンの操作も比較的容易です。真ん中に中学校区の地図を入れ、その周りに写真を入れるマップづくりのパターンができつつあります。こうした活動を一般市民に呼びかけ、年 2 回、9～10 月の秋頃と 3 月頃に広場をつくって作成し、展示していく中で、地域に広げていきたいと考えています。

高木部会長 平瀬川の活動で今度完成する歩くためのマップも紹介していただけませんか。

松井委員 ケースの中に4枚、8コースのマップが収められています。19日のグリーンフォーラムの会議までに完成する予定です。「太古の昔から向丘地域はもちろん、高津区や中原区まで田んぼや生活用水として、地域を潤してきた歴史遺産ともいべき平瀬川。この地域がどうなってきたのか、歴史解明のスタートとしてマップづくりが始まりました。」「感動とときめき再発見、あなたの目で見つけよう」ということで、こちらの部会で出てきた言葉も使わせていただきました。会として情報はもっとたくさん持っているのですが、マップに掲載する情報はできるだけシンプルに最低限にしています。興味を持った人に提供するもっと詳しい、「新編武蔵野風土記」を基にしたコース別の資料も用意しています。今年の9月の第2土曜日にこのマップを使って健康ウォークを行おうということで、今呼びかけています。老人会や自治会、体育指導員会、青少年指導員、6つの小学校や4つの中学校などで配布する予定です。会員にも配布する予定で既に800以上のマップの配布先が決まっています。最初は1,000部作成の予定だったのですが、それでは余部があまり無いということで、資金調達し、1,500部印刷、残りは販売することを考えています。こうしたマップを地域で歩く、集まるツールとして活用してもらえればと考えています。

高木部会長 しかけとしてマップづくりは面白いと思います。想定している地域は、どうでしょうか。

松井委員 平瀬川の流域を大体3時間で歩けるコース毎に分けて作成しています。マップづくりの地域設定は必ずしも学校区ということではなく、そのテーマに合わせて設定していくと良いと思います。

河井委員 グリーンフォーラムは中学校区単位で活動を進めています。中学校では映画づくりなどにも取り組んでいますし、例えば平瀬川の歌がありますが、宮前区の歌をつかって、1番は区全体の資源を取り上げた歌詞、2番は地域毎の資源を取り上げた歌詞などができると面白いと思います。

松井委員 菅生小学校では、学校を中心に多世代型のスポーツクラブをつくっていきこうという動きがあります。学校を中心に地域の様々な団体が力を合わせていきこうとしています。このスポーツクラブの中に、音楽の活動や環境の活動も入れていきこうという話もあります。区割りは重要ではなく、どこが核になり、資源をどのように活かしていくのが重要です。

恒川委員 まちあるきをしている中では、あまり区などの行政界で限定する必要はないと感じています。区内だけに限定してしまうとせっかくの良いものが見失われてしまうと思います。

交通の問題をどう考えていくのかも重要だと思います。今度ぜひ飛森谷戸を歩こうと話しているのですが、どこを集合場所にしたら良いのか悩んでしまいました。

桜は区の木ですから、先ほどのマップのような取り上げ方は良いと思います。宮前区ではハナモモも有名です。来年2月頃にハナモモを見て歩こうという話もあります。

先ほどの地図ですが、元々地域を知っている人にはわかりやすいと思いますが、初めての人には意外とわかりづらいのではないかと思います。

松井委員 実はあんまり他所の人に見てもらおう、来てもらおうとは考えていません。まずは地域の人に地域を知ってもらうために使いたい。そこから話題が広がる分には良いのですが、まず地域の人です。他所から来た人が歩いても、例えば特に有名なお寺があるわけではなく、それほどおもしろくないかもしれません。地域の人に、地元になんなものがあったんだと知ってもらい、その資源を活用してもらおうことを目指しています。

運動としてやっていくには、競争もある程度必要だと思います。その意味では一定の区割りは必要かなと思います。「〇〇中学校ではこんなものをつくっているから、うちでもやってみよう」など上手に盛り上げていきたいです。

高木部会長 地域の宝物のコンペというアイデアもありました。

松井委員 地域の宝のシンボルゾーンというのもおもしろいと思います。過剰な競争意識は良くないですが、楽しい競い合いというのは良いと思います。そのほうが広がりやすいと思います。

恒川委員 区民会議の部会としては、地域限定ではなく、どう区全体を盛り上げていくのかという視点も必要です。

松井委員 地域毎での参加者を増やすことが全体の参加増加につながると思います。ある地域でやっていることに、他地域からも参加するという形ではなく、各地域での回数、参加の機会を増やしていきたい。地域のいろいろな人が関わってくることが大切だと思います。

千葉委員 私の会社で運営している伊丹市の官民共同のポータルサイト「いたみん」で、子育てマップを作ったことがあります。子育て中の方を対象にしたマップだったのですが、テーマ毎に地図を分けて作成しました。

インターネット上だと、例えば遺跡や遊び場などキーワードで検索して、お薦めの場所を引き出しといったような、データ抽出のしくみについて、紙媒体にはなかなかできないことが比較的簡単にできます。また PDF など印刷に適したデータで掲載していくことも可能です。また、紙媒体はレイアウトが決まってしまう面がありますが、インターネットなら、レイアウトには縛られずにそのスポットをクリックすると更に詳しい情報が出てくるというような仕組みもできます。

高木部会長 インターネットの場合は、同じ地図をベースに使いながら、テーマ毎に情報を抽出したり、情報を選んで表示することができます。相当な情報量を落とすしていくことが可能です。マップづくりの手段としては、とてもよいと思います。

事務局 21万市民がいる宮前区では、マップづくりに参加できる人たちはごく一部です。成果物をどう見せてくかを意識しないとなかなか広がっていきません。全体会でも「地図だらけになってしまうのでは」という意見が出ていました。事務局で話し合っている中では、A3版くらいの中学校区のベースとなる地図をつくり、その上に透明の、様々な情報を載せたシートをつくって、重ねて見ることによって様々な地図ができるようなしくみはできないかというアイデアが出ました。

松井委員 緑をテーマにしたマップづくりでも、緑の中にいろいろな種類があります。街路樹から斜面緑地、生産緑地など、それぞれテーマ毎にデータ収集、表示していき、個別に引き出したり、見れるようにすることもパソコン上なら可能です。またホームページは、誰でもみられる点も良い点です。

高木部会長 ベースがあって、いろいろな情報を重ねて見るという発想は良いと思います。

事務局 イラストレーターというソフト上であれば、レイヤーという考え方です。パソコン上であれば、何枚レイヤーを重ねてもよいのですが、紙媒体で作成する場合、シートの透明度がよほど高くないと、何枚も重ねていくと見にくくなってしまいます。

松井委員 紙媒体ではあまり見たことがないので、多少時間がかかってもやれるとおもしろいですね。

事務局 例えばベースとなる地図を透明の袋のような形にして、そこに情報を落としたシートを入れて地図をつくるという形も考えられます。そして今年は桜、次の年は緑というように、シートを増やしていてもおもしろそうです。

松井委員 区の木が桜だということで、桜のマップづくりはすでに4中学校区で始まっています。運動性をもって広がっていくと良いですね。

高木部会長 区内全ての地域が一緒に進めていくのは無理ですから、まずできる地域から始めて広げていく必要があります。

今回事務局でご用意いただいた資料「上毛かるた」についてご説明をお願いいたします。

事務局 たまたまTVを視ていた際に、地元自慢のコーナーで、ある芸能人が「群馬県人だったらみんな

な知っている」「上の句を聞けば、下の句を言える」と紹介していた物です。インターネットのブログ等で調べてみますと、群馬では「全ての読み札を暗記しないと小学校を卒業できない」「言えないと群馬県出身として駄目な気がする」「群馬県人のアイデンティティの一部」と紹介するサイトもあるほどでした。群馬文化協会が学校教育の場でふるさとの歴史文化を伝える目的で、戦後の1947年に作成、次の年から県大会など開催されているそうです。事例として紹介させていただきました。

高木部会長 実際の札を見ると、人物なども結構取り上げられていますね。

事務局 全国的には有名ではないけれど、このカルタのおかげで地域ですっと伝えられている人物もあるそうです。ちなみに以前地域振興課にいた群馬出身の職員に聞いたところ、全て諳んじているということでした。私の妻の友人の群馬県出身者も、小学生時代、毎年冬休みになると地域の公民館で、三箇日以外、毎日練習していた。そして学校が始まると週1回の道徳の時間で必ずこのかるたをやっていた。それが6年間続いたそうです。いろはかるたの存在を知らずにかるたといえこれだと思っている人もいるほどだそうです。

松井委員 かなり徹底していて、すごいですね。

高木長 マップと比較して、かるたの方が一つひとつの資源が独立した形で取り上げられるということがありますね。マップでは全体としてのつながりがより重要になります。

松井委員 かるたはかるた、マップはマップの良さがありますね。

高木部会長 かるたもマップも映像コンクールと絡めたり、歩いて見に行ったりといったことにつなげたいです。

永野委員長 マップづくりやかるたづくりを通して地域を知り、発見していく段階、またできたものを利用していく段階があります。ウォーキングなどは利用していく段階の提案です。区民会議からの提案として、こうした二段構えの提案として、事例を踏まえていく必要があると思います。また、実施に際して、どのような団体にどう呼びかけるのか、市民がやることと行政がやることの整理も必要です。いろいろな団体に働きかけることができれば、その団体が得意なテーマから取り上げてもらうことができると思います。

中学校、小学校区などの地域範囲は、顔の見える範囲の地域という発想からきたものであって、テーマによって、エリア設定は柔軟であるべきです。たとえば川であれば、その流域に沿った帯状のエリア設定になるでしょう。それぞれの担い手が工夫して決めていけば良いと思います。

恒川委員 野川カルタという大変良い事例があるので、まずカルタづくりを広めていく。そしてそれがマップづくりに発展していくと良いと思います。

上毛かるたを見ますと食べ物があまり取り上げられていませんが、そうした資源もどんどん取り入れていってよいと思います。

永野委員長 資料2の資源リストをどのように活用していくかも考えなければなりません。

恒川委員 前提条件や制限を与えてしまうような形はなるべく避けたいと思います。参考のための資料としては良いですが、何を考えるかは子どもたち、参加する人に任せたいです。

松井委員 モデルケース、デモンストレーションを見せないとイメージが沸きにくいということはあると思います。かるたでは野川があります。マップでは今つくっている桜マップが事例となります。「区の木ということで桜を取り上げたけれども、他のテーマに応用して、テーマをつくって探しましょうよ」という呼びかけができます。マップづくりに参加している方々に聞きますと、「長く住んでいるけれど、テーマを頭にカメラを持って地域を歩くと、地域が全然違って見える。新たな発見があって楽しかった」と言います。みんなで地域を見つめれば、みんなで楽しめると思います。

河井委員 グリーンフォーラムでガーデンづくり講座をやってきましたが、今度の 19 日の金曜日にガーデンめぐりをしようという話になっています。宮崎台の駅を出発するルートです。身近な歩ける範囲でも、「こんなところにスモークツリーの畑があるの？」など、本当に知らない資源、発見、見てもらいたい所がたくさんあります。経験すると、地域の見方が変わってきます。

松井委員 地域の花壇マップもできると思います。東名川崎インターの前の花壇も地域振興課が窓口で土橋の園芸クラブが主体性を持って活動しています。すごくきれいな花壇です。活動が広がって、昨日は子どもたちやお母さん方がそれぞれ 70~80 人も集まって植え替えを行ったと聞きました。良い事例をうまく情報発信できれば「うちでもやってみよう」につながると思います。

永野委員長 地域の資源を地域の人に伝えるイベントも提案していきたいですね。

松井委員 節目々々に、それまでの成果を広報し、コメントをもらって、更に深めていく広場は非常に重要です。多くの参加を繰り返していく場が運動として重要です。

永野委員長 防犯の方でも地域安全マップづくりを、小学校を中心に広げようと活動しています。地域教育会議と防犯ネットからインストラクターを派遣して、お手伝いをしながら進めています。そうした支援をかるたづくりやマップづくりについてもやっていく必要があると思います。しかけをうまく提案して、予算をつけていく。地域安全マップづくりの場合、マップがひとつできるまでインストラクターの講師料や紙代・文具代等全て合わせて 6~7 万円の費用がかかっています。

高木部会長 できたものを広げていく場があることは重要ですね。他の地域にどうやって波及させていくか、どのように情報を出していくか。また、裏づけとなる予算をつけていくことも必要です。宮前区独自のものができると良いと思います。少額の予算でもつけば、それだけ取り組みやすくなります。

永野委員長 宮前ぽ一たろう上でも掲載して、そこから印刷できるような形ができると良いですね。

事務局 一般的なプリンタ用の透明フィルムというのも売っていますので、そうした形でできると思います。ただ、一般的なご家庭では、A4 版までのプリンタがほとんどですので、あまり大きな物は印刷できません。

高木部会長 駅周辺のマップくらいの範囲でしたら、A4 版でも充分です。例えば、駅からこの区役所の間でもいくつかの資源が紹介できると思います。富士見坂という坂の名前もついています。

河井委員 宮崎町内会老人会では、手書きのマップをつくっていますが、集合場所は駅で、駅出発のコースをつくっています。

高木部会長 駅に近い地域は、駅を起点としたマップで、コースもつくりやすいと思います。駅から遠い地域をどうするかです。

恒川委員 例えば飛森谷戸まで宮前平の駅から歩いて行って、また帰ってくるとどのくらいかかるのでしょうか。

高木部会長 片道 4 km 弱くらいあると思います。30 分はかかります。

恒川委員 まちあるきは高齢の方が多く参加されており、一度に歩くのは 4 km くらいが限度です。

高木部会長 駅から飛森谷戸まで歩いたら、それだけで十分だと思います。往復すると 6 km 以上はあります。またバスで行く場合も乗り換えが必要です。

松井委員 マップを見ながら行くのも良いのですが、地域の人がガイドでつくるとまた違います。富士山の青木ヶ原に行った時、地元の方にガイドしていただいて非常に良かったです。

高木部会長 最終的にはそういうところを目指したいですね。地元の人がガイド役や観光大使として、広く資源を紹介する形です。宮前区の資源を紹介する地域ガイド養成講座などができると良いです。

松井委員 地域の人でも最初は講師の方に習っていても良いのですが、そのうち、自ら紹介やガイドがで

きるようになると良いですね。世話役が地域の中でできていかないと、定着しないと思います。

高木部会長 ガイド養成の講座や認定制度などいろいろ考えられますね。次の段階のステップになると思います。最初のステップとしてモデルケースをつくる上では、どこに依頼するかということが重要です。自治会なのか、小学校なのか。

河井委員 宮崎台小学校の総合学習に関わっているのですが、6月1日の打合せでは、今年は+αで自然や緑に関わるカルタづくりに取り組んではどうかという話をしてきました。細かいやりかた、進め方は学校にお任せしているのですが、野川かるたの事例も子どもたちに見てもらいます。昨年度はジャンボかるたということで、月ごとにいろいろな行事のかるたをつくりました。市民館などで紹介や展示もできるかもしれませんよと言っています。先生も乗ってきてくださっています。

松井委員 昨年のジャンボかるたは展示されていましてね。ガーデニングサロンの場でも紹介されていました。

永野委員長 次の活動団体へつなぐ手法も提案の内容となると思います。安全マップの場合は地域教育会議が核になっていますので、自治会・町内会の参加があります。また校長へ働きかけることで、総合学習の時間の中で取り組んでもらっています。

恒川委員 学校の総合学習で取り組んでもらうには、ある程度時間がかかるという話が前回ありました。

永野委員長 今から言うと大体一年後ということになると思います。

松井委員 地域教育会議と一緒にうまく連携できると良いなという思いを以前から持っています。地域教育会議はいろいろな方が入っている組織ですので、そこが本腰になってくれると大きな力となります。

永野委員長 1回だけのイベントになってしまっただけではいけません。決められた行事の消化だけになってしまっている地域も多く、なかなか新しい行事が起こせないこともあります。いろいろな団体に一斉に働きかけていくためのネットワーク、連携のしくみがうまく提案できないかなと思います。

松井委員 福祉関係の団体、交通安全の団体など、それぞれの分野では活動しているのですが、横の連携がなかなか進まないですね。

事務局 いろいろな団体に参加してもらうことができると思うのですが、やはり核がどこになるのかというところが重要です。そこさえ決まればうまく動いていくのではないのでしょうか。

松井委員 一団体が呼びかけるより、行政が呼びかけると、より聞いてくれるという一面もあります。行政主導ではいけないのですが、上手に音頭をとっていただく。我々が良いテーマだからと宣伝してもなかなか集ってこないことがあります。行政が絡むことで安心して参加してくれる団体もあります。

事務局 バランスが重要ですね。行政が出すぎてしまうと、言われて・頼まれてやっているということになってしまいます。

私個人の勝手なイメージなのですが、かるたづくりやマップづくりをするのであれば、グリーンフォーラムさんのこれまでの活動をベースにしていければと思っています。それぞれの地域で核になっている方も既にいらっしゃいます。その上で他の団体の方を巻き込み、支援をしていくことで実現していければと考えています。地域に丸投げするのではなく、成果物を出すための専門の事業者を入れるための支援などは行政で行っていく考えです。既存の取組を活かしながら進めていきたいです。

永野委員長 手法として、実行委員会組織をまずつくる方法もあります。行政が事務局となって公募する方法です。

高木部会長 既に動き出している地域でなく、新しい地域にどうやって知らせ、広げていくか、そのしくみづくりが課題だと感じています。そこができないと顔づくりまでにはなかなか繋がりません。

松井委員 地域対抗の宝物コンペのアイデアがありましたが、そうした事が面白く、楽しくやれると良いです。先日NHKで島倉千代子と美川憲一が地域の資源を取りあげる番組が宮前区で収録されました。

高木部会長 あの番組を佐久で聴いていて、今度来るといふ人もいたそうです。

河井委員 メディアもうまく活用できると良いですね。

松井委員 歌を題材にお国自慢にうまくつなげた番組でした。地域の自慢をしてもらおう場をつくる、例えば地域のコーラスが歌っている中で、地域の産物など地域が誇れる資源をパネルや映像で見せる。そんなイベントを年2回など定期的で開催し、今年はこの地区というふうに繋がっていくと面白いと思います。情報発信が必要です。

高木部会長 「歳時記みやまえ」が発行されるようになりましたが、こうした紹介のコーナーがあっても良いです。区役所のロビーなどもうまく使いたいです。

松井委員 地域ごとの出し物ができるような場ですね。

永野委員長 地域自慢大会が定期的になると良いですね。昔、区民祭に前夜祭があり、歌手などを呼んで盛り上がっていたことがありました。区民祭の何日か前にそういうイベントをやっても面白いと思います。

松井委員 地域ごとにうちはこんなカラオケ好きがいる。こんな楽器ができる人がいるなど、楽しみながら、いろんな出し物をしながら、広がっていくと良いですね。

河井委員 イッツコムなどにも映像として取り上げてもらえるといいと思います。

高木部会長 前夜祭ではなく、区民祭そのものでステージとして取り上げてもらっても良いと思います。会場そばの市場の農産物を自慢するのも良いです。区民祭の活用も考えていきたいです。

事務局 区民祭はひとつの良い場となると思いますが、来場者が限られ、固定化しているという話もあります。他の場でもできると良いと思います。

松井委員 区民祭は買い物ツアーになってしまっているという声も聞いたことがあります。

事務局 先日のNHKの番組のように、この地域をまったく知らない有名人が来て、そこで紹介をするような形も良いなと思いました。客寄せも何か工夫する必要があります。

恒川委員 TVで紹介されている映像（イッツコム？）ももっと面白くできると思います。地域の宝自慢コンペ、春の桜など、時期に合わせた紹介をして、それが区役所ロビーのTVでも見られるようになっているといいと思います。

高木部会長 コンペとなるとちょっと難しいかもしれませんが、地域の自慢をシェアイベントを定期的に行うと良いなと思います。内容や形式などはこだわらずに受け入れて、その地域で盛り上げていく雰囲気をつくっていききたいです。そこから新たな題材も生まれてきそうです。

恒川委員 あそこではこんなこと、うちではこんなこと、という風に盛り上がっていくと良いですね。コンペという形式は大事にしたいです。

恒川委員 老人会は地域の学校と接するような取組も行っています。

永野委員長 新しい住民の方々、町会などに参加していない方に「ちょっと面白いことやっているな」と思ってもらえるようなものができると良いです。

コンサルタント 提案として最終的にまとめていく上では、永野委員長もおっしゃられていたように、段階別に分けて整理していくことが必要だと思います。より多くの市民に参加してもらおう段階、成果物としてのかるたやマップを活用、広めていく段階などです。そして手法の雛形といいますか、ある程度のパターン化、事例の紹介が必要だと思います。今、この場でまとめるのは難しいですが、次回

は表的な整理ができればなと思います。

また、コンペについての意見がいくつか出ていましたが、オーディション的なやり方も面白いかなと思います。オーディション形式であれば、個人レベルでも応募しやすくなると思います。何でも良いから自分はこんなことができるんだよと応募する。今海外も含めオーディション番組が流行っています。市民の方にも入りやすく、面白いと思っていただけるのではないのでしょうか。自分の地域から出たオーディション出場者を応援するような形につなげていければ良いと思います。

高木部会長 地域代表という形になりますと、その代表を選ぶ過程が大変になってしまうかもしれませんね。やりかたはいろいろ考えられそうです。自分のことでなく、推薦のような形でも良いかもしれません。

コンサルタント 最終的な提案は、ひとつの固定的な形ではなく、ある意味メニュー的な形になるのかなというイメージを持っています。例えば前菜とメインはそれぞれ宝を発見する段階と、共有する段階。メインディッシュにはかるたづくりと、マップづくりがあって、それぞれこんなやり方でどちらを選んでも良いですよというような形です。

高木部会長 いくつかの事例を示さないとやり方としてなかなか広がっていかないと思います。平瀬川の事例など、こういうことをやっていますというのはどんどん出していきたいです。

松井委員 私の団体の中にも、歌やコーラス、書、短歌・和歌、油絵など様々な特技、表現法を持った人たちがいます。

永野委員長 具体的な解決策の中身については、既存の議論ペーパー（資料1）とは別に詳細のシートをつくらなければならないかもしれません。特に発見した資源を知らせて行く、広げていく手法については、もっと広げられそうです。

事務局 それぞれの段階が断絶してしまっただけではいけないと思います。かるたづくりやマップづくりと、発見した資源を知らせて活用していく段階の提案がまったく別物になってしまうのではなく、ある程度の一貫性があつたほうが良いと思います。

恒川委員 先ほどの宮崎台小学校の総合学習の話には参加対象が決まっているのでしょうか。また父兄の参加はあるのでしょうか。

河井委員 総合学習で、毎年その時の四年生が対象となります。「もっとステキな宮崎台」というテーマでやっています。父兄の参加については、10月ごろの発表会に来るくらいです。

恒川委員 もっとシニアや父兄を巻き込む方法を考えたいです。

松井委員 子どもたちの感性というのは本当にすごいです。平瀬川で毎年開催している七夕サミットには父兄をはじめ、地域の方が大勢来ます。自治会や青少年指導員の役員も来ます。そしてその発表内容に、大人がびっくりして、刺激を受けます。学校で行われたことを学校の中だけでなく地域に広く発表していく場があると良いなとおもいます。グリーンフォーラムでも発表の場を工夫しています。親や地域の関心を引く良い方法でもあります。

渡辺委員 子どもが各家庭に持って帰るような資料などはあるのでしょうか。

河井委員 ガーデンの花を押し花とした作品やつくったハーブバターなどを持ってかえることはあります。いろいろな資料やしかけはまだこれから考えていきたいです。

高木部会長 地域の高齢者の話を聞く会を地域で開催していた例もありましたが、今は続いていないようです。こうした取組は小学校によってもバラバラです。

恒川委員 区民会議からそこが提案できると良いと思います。

高木部会長 安全マップづくりでは、子どもたちはどのような参加をしているのでしょうか。

永野委員長 子どもたちにこういう場所が危険だということを覚えてもらう目的があります。誰でも入りやすく、見えにくい場所が危険ということを講義で教え、実際まちに出て観察してマップに落としています。

社会福祉協議会の事業として地区懇談会があり、地域や学校との接点を目指しているのですが、まだあまりうまく機能していない一面があります。

高木部会長 テーマが明確になっていない面があると思います。

恒川委員 老人会が学校の行事や総合学習に関わっていることを町会がよく知らない例もありました。

松井委員 先ほどの上毛かるたの事例はその徹底ぶりに非常に感心しました。何か核がしっかりしていなければ、ただ高齢者が昔の話をしにいくといっても、なかなか定着しません。みんなで作るかるたやマップが核になっていけばうまくいくと思います。

恒川委員 学校の協力を得ることが重要になりますね。

事務局 松井委員の団体のように、すでに総合学習などで、地域の学校との関わりをもっている例もありますが、それも校長先生や担当の先生が替わると急に方針が変わってしまうことがあります。働きかけの形としては、まず事務局の方から校長会を通じて説明し、連携できる団体紹介などしながら、呼びかけることになると思います。いきなり全校ではなく、1校からでも始められればと考えています。

永野委員長 各区にできたこども支援室には、教育委員会からの職員も配置され、風通しが良くなって来ていると感じています。

松井委員 多摩川プランでも、市民活動団体との連携を教育委員会は積極的にやっていただきたいというメッセージを発信しています。現場での対応なども含め、少しずつ関係が良くなっていることを実感しています。

事務局 社会の授業では、地域の産業や資源を知る内容も入ってきますので、総合学習ばかりでなく、そこでも連携が進んでいくと良いと思います。

河井委員 国語や美術でも取り入れていくことが可能です。総合学習以外の授業への取り入れができれば、より色々な先生に関わっていただくことにもなります。

事務局 かるたづくりも何年に一度かは、内容の改訂を行うような流れができると良いと思います。

恒川委員 野川かるたは構想から、完成まで3年ほどかかったということでした。

高木部会長 下調べや現場作業から始めますと、やはりそのくらいはかかりますね。

事務局 ちょうど3年後の区政30周年というのはひとつポイントになると思います。

高木部会長 30周年に向けていろいろしかけていく提案をしたいです。

事務局 あくまで一般論ですが、区民会議からの提案については、行政としましても比較的予算をつけやすい面があります。

高木部会長 第3期以降の区民会議でも、機会としてうまく捉えていけると良いですね。

事務局 第1期の提案はある意味お題目的で、行政が一度引き取って、さまざまな事業の形でも現在反映してきています。今期の提案はもう少し実行計画的にできると、予算もすぐにつけやすくなると思います。来年度から動くということも充分可能性があります。

高木部会長 区政30周年の時は、全体的に立ち上がるまでは難しいかもしれませんが、取組が進んでいる地域は完成形を発表する場に持っていき、成果を具体的に見せたいです。

恒川委員 参加の形を示していきたいです。

事務局 提案はある程度、参加の形式まで決められた形が良いと思います。ただ、実行の際は現状に合

わけて柔軟に取り組んでいくことが必要です。第1期でも高齢者福祉で「散歩など健康づくり活動」に関する提案がありましたが、現在はそれに「公園体操」という形で積極的に取組み、報告させていただいています。

永野委員長 マップづくりなどは、中学校区くらいの範囲の方が始めやすいと感じています。

事務局 小学校と比較し、中学校の協力を得るのは難しい面もあります。部活や受験が忙しく、小学校のように使える総合学習の時間ありません。つくる単位は中学校区でも、働きかけていくのは小学校単位の方が、事例がつくりやすいと感じています。

コンサルタント 次回の部会では、提案の最終形が見えるような表やぼんち絵的なこれまでの議論のまとめを図っていききたいと思います。8月の全体会で報告していく必要もあります。

永野委員長 つなぐ方法論についてつめていきたいです。

恒川委員 どれだけの人の参加をどのように得て、何をやっていくのか、その手法をまとめていくということですね。

松井委員 その上で非常に重要となるのは、やはり人脈だと思います。スタッフを誰にやってもらうのか。またそれらの人をつないでいく仕組みです。それがないと、やることがわかっていても、実現できません。

高木部会長 かるたにしても、マップにしても、やることは見えてきています。

松井委員 仕事として、給料があるからやるのと、ボランティアで集まれというのでは、やはり人の集まり方がかなり違ってきます。市民活動は楽しくやるのがコツです。

事務局 市民に全てやってもらうのではなく、かるたでも、マップでも、技術的な面やビジュアル的な面での支援はしていきたいです。そのコーディネートとしての人つながりも重要となります。

松井委員 グリーンフォーラムでは、渡辺委員や河井委員などそれぞれの地域で素晴らしい積極的なスタッフがいます。そういう地域はうまくいっています。グリーンフォーラムとしては、野川地域にまだそうしたスタッフがいない現状があります。有馬・野川会館ができたので、あそこを使ってイベントや活動、野川はあもの5周年も応援しながら、地域の人材を発掘していきたいと考えています。

高木部会長 集まれる拠点できたのは大きいですね。

議論が進んだのか、進んでいないのかよくわからないのですが、今回は最終的な提案の形を意識した整理を行っていききたいと思います。

松井委員 私は毎回ここで話すことが、自分の団体の活動への非常に良い刺激になっています。

事務局 今回は、最終提案について、例えばかるたづくりやマップづくりについての実行計画の詳細をまとめていくような形になるかと思います。

地域別だけでなく、宮前区全体のかるたもあってもよいかなとおもいました。各地域のかるたから選抜してつくるような形も考えられます。

永野委員 参与から、メリハリをつけたほうが良いという意見もありましたが・・・

事務局 それは実行の段階で、地域でつけていっても良いかなと思います。

高木部会長 先ほどの区全体のかるたなどはメリハリになりますね。それを区政30周年の場で選ぶなどの形も考えられます。イベントにもなります。

恒川委員 かるたやマップをつくる際に地域の歴史などを聞く機会を設定しても良いと思います。可能でしょうか。

事務局 充分可能ですし、成果を深めていく上でも良い提案だと思います。

松井委員 森川さんなど、地域の歴史や風土をまとめる活動を展開してきている方々もいます。

事務局 実は商店街連携の事業で今年度マップづくりが事業化されています。担い手の確保等まだこれからののですが、商店街の人材もかるたやマップづくりの中で活かしていければと思います。

高木部会長 先日 TV でわがままイチゴが紹介されていましたが、結構大きな反響があったようです。

松井委員 平瀬川には商店街関係のスタッフが結構います。将来的には商店街のマップなどもつくりたいです。店の特徴を出たものがうまくできて、活性化につながると良いと思います。

事務局 有名な商店や企業はかるたに載ってきても良いと思います。

渡辺委員 私は今、地域包括支援ケア会議でも活動していますが、高齢者向けにデリバリーしてくれる店や、車椅子でも入れるバリアフリーの店などを記したマップづくりなどを行っている事例もあります。マップづくりは本当にいろいろな角度から行うことができます。

高木部会長 先ほどの上毛かるたですが、改訂などは行われているのでしょうか。

事務局 絵札の更新は行われているが、取り上げられている題材は変えていないと思います。

(以上)

(2) その他

■次回部会日程について

- ・ 7月9日(木)18:00～を第一候補として調整することで決定した。

■「歳時記みやまえ」について

※資料に沿って、事務局が説明し、情報の提供、意見を求めた。以下の情報が寄せられた。

- ・ 7月25日(土) 飛森谷戸 夜の自然観察会 18:00～ 集合場所：初山幼稚園車庫前 保護者同伴
- ・ 7月26日(日) 飛森谷戸 昼の自然観察会 9:00～ 集合場所：初山幼稚園車庫前 保護者同伴